



発行日：2010年2月15日
発行所：浦和大学・浦和大学短期大学部 入試広報課
さいたま市緑区大崎3551
TEL 0120-860-294(入学相談窓口) TEL 048-878-5536
FAX 048-878-5690 URL http://www.urawa.ac.jp/

浦大レター

浦大TOPICS

TOPICS

1

第12回福祉文化フェスティバル開催

これからのホームレス支援のあり方を考える一日に

浦和大学九里総合福祉文化研究所が主催する「福祉文化フェスティバル」が1月16日(土)に本学3号館3201教室で開催されました。当日は、会場に用意した一般席がほぼ満席になるほどの盛況となりました。

実行委員長の総合福祉学部3年、香取一平くんの挨拶のあと、本学学生による研究発表が行われました。研究発表は、ホームレス支援を研究テーマにしている宮寺由佳准教授のゼミに所属する3年生の学生が担当し、「ホームレスって、なんだろう?~人間らしく生きる~」と題し、ホームレスの現状、なぜホームレスになるのか、ホームレスに対する支援について順序立てながら説明し、最後にホームレスの方たちが自立するための道すじと、そのための支援のあり方について発表しました。

後半はゲストとしてお招きした「ソケリッサ!」と「むすび」のパフォーマンスが行われました。ゲストは2組ともホームレスを経験した方をメンバーとして結成されたグループで、「ソケリッサ!」は踊りを主体とした肉体表現を、「むすび」は紙芝居を披露しました。「ソケリッサ」のパフォーマンスでは、メンバー6名全員での踊りやミュージカルを連想させるソロでの演技など、演者の動きの一つひとつに観客の目が集まっていた。



一方「むすび」の演じた紙芝居は、紙芝居の絵もストーリーもメンバーの衣装も全て手作りで、とてもアットホームな雰囲気のなか演じられました。

それぞれのパフォーマンスの後、インタビューが行われ、インタビュアーを務めた学生から、パフォーマンスを始めたきっかけや、これまでの活動内容について質問し、またホームレスを経験した人間にとって今の活動が心の支えとなっていることなど、貴重なお話を聞くことができました。

今回の開催は、参加された方にとって、ホームレスへの理解を大いに深めてもらう場となっただけでなく、ゲストとして来校いただいた方たちの間もつながりイベントとなりました。



CONTENTS

Table listing contents: 浦大TOPICS1 第12回福祉文化フェスティバル開催 1, 浦大TOPICS2 こども学部でカブラ講習会を開催 2, 浦大TOPICS3 特定高齢者を対象とした介護予防教室を開講 2, 浦大TOPICS4 介護福祉科で実践研究レポート発表会 3, 浦大TOPICS5 スマイルハウスで音楽療法を実習 3, 浦大TOPICS6 社会福祉士国家試験の特別講習会開催 3, 授業紹介(卒業研究) 4, 実習レポート 5, 就職内定者の声 6, クラブ・サークル紹介 7, 春のオープンキャンパス開催のお知らせ 8

浦大TOPICS

TOPICS

2

「カプラ」の魔法を体験!! こども学部で講習会を開催

こどもコミュニティセンターの「親子のひろば『ほっけ』」には、「カプラ」という遊具があります。こども学部では毎年、豊かな創造力、集中力を育て、子どもとのコミュニケーションを深めていく力を養うため、カプラの普及に努める組織「アトリエカプラ」から志賀嶺司氏を講師にお迎えして、カプラの講習会(ワークショップ)を行っています。カプラはフランス生まれの造形素材で、一枚一枚は小さな長方形の板ですが、それをブロックのように組み合わせることで、建物や乗り物、動物などイメージしたものを形にできることから「魔法の板」と呼ばれています。

昨年度は地域の親子も参加できるよう日曜日に開催しました。今年度は学生がじっくりとカプラを使った遊びの方法を学べるよう、こども学部の学生と教員のほか、この日に偶然学校見学に来ていた浦和実業学園高校の高校生たちも参加して実施しました。

講習会は当初2時間の予定でしたが、参加した学生が熱中するあまり、3時間近く続けられダイナミックで躍動的



な作品ができあがりました。時間的な制限がなければ、世界は更に広がっていきそうでした。完成した作品を眺めたときには、学生たちからため息と静かな歓声が起こり、一枚の小さな板の組み合わせによって起きた“魔法”を実感しました。

TOPICS

3

総合福祉学部で地域の特定高齢者を対象とした介護予防教室を開講

総合福祉学部の福祉健康スポーツコースを担当する植屋悦男教授が、地域の特定高齢者(近い将来に要支援・要介護状態となる可能性のある65歳以上の高齢者)を対象に介護予防教室を開講しました。参加者は、本学関連施設である特別養護老人ホーム「スマイルハウス」内に設けられた地域包括支援センターが募集した、大学近隣に住む特定高齢者で、2009年9月から11月までの3カ月間、全12回の講習を受講しました。



高齢者が要介護状態になるきっかけとして、日常生活で起こる転倒などによる怪我が原因になるケースが多く、こうしたことへの取り組みとして健康なうちから自分自身の体力にあった運動を知ってもらい、健康維持を目指すことが目的。

講習の前半4回はスマイルハウス内で、寝たきりにならないための介護予防についての座学講義を行い、残りの8回は浦和大学内に新設したトレーニングジムで、健康づくりのためのトレーニングを行いました。

トレーニングはまず体力測定から始まり、現在の体力を十分に把握したうえで、ストレッチから歩行運動、ダンベルを用いた体操、リズム運動と徐々にステップアップし、加齢によって衰えていた運動機能の回復を図りました。

また、1回90分の講座の途中には、休憩時間(ティータイム)を設け、普段の生活習慣や今回の講座を受講して、どのような変化が起きたかなど会話に花が咲いていました。受講した方からは、「最初はトレーニングについていくのが大変だったが、後半の頃には頭で思ったことに体がついてくるようになった」という意見や、「休憩時間に色々な人と交流でき、体だけでなく心のケアにもなった」という感想も聞かれました。

浦大TOPICS

TOPICS

4

2年間450時間におよぶ実習の集大成

介護福祉科で実践研究レポート発表会

12月24日(木)、介護福祉科の実践研究レポート発表会が行われました。2年間の学びの集大成ともいえるこの発表会には、発表を行う2年生だけでなく、1年生も毎年参加しています。2年生は学びの結晶である卒業論文をもとに、それぞれの研究の成果を発表し、1年生はそれを翌年の自分にオーバーラップすることで2年生の学びを肌で感じとります。

報告する2年生の中には、実習中に苦労したことや利用者さんとのふれあいの中で感動したことなどを思い出し、



感極まって涙を浮かべる学生もいて、たいへん感動的な発表会となりました。

TOPICS

5

音楽を通じてみんな笑顔に

スマイルハウスで音楽療法を実習

介護福祉科の選択授業である音楽療法の実習が、本学から歩いて5分ほどの所にある大学関連施設『スマイルハウス』(特別養護老人ホーム)で行われました。実習では施設の利用者の方たちを前に、先生のピアノ伴奏に合わせ、学生たちは練習してきた曲を歌いました。知っている曲が流れると、学生たちの歌声につられ利用者の方々も懐かしそうに歌を口ずさんでいました。音楽を通しての心の触れ合いを、学生は実習を通して体験的に学びました。

実習を終えた学生に感想を聞いてみると「すごく楽しかった」と満面の笑みで答えてくれた一方、実際にやってみると、なかなか思うようにいかないこともあり「難しかった」と答えてくれた学生もいました。この「音楽療法」では教室で行われる授業と、体験的に学ぶ実習から、学生は多くを学んだようです。



TOPICS

6

社会福祉士国家試験に向けラストスパート

受験のためのテクニックを伝授

総合福祉学部では、社会福祉士国家試験の現役合格を目指し様々な受験対策を行っています。

その一環として、受験まで残り2カ月となった12月4日、総合福祉学部の福田健一准教授が「社会福祉士国家資格合格受験技術」と題し、特別講座を開講しました。

今回の特別講座は、社会福祉士国家試験の内容に関する講義ではなく、残り僅かとなった勉強期間を有効に使うための効率的な受験勉強の方法や、設問の読み解き方など受験テクニックに的を絞ったもの。これまでの講座と違った切り口での特別講座には、4年生だけでなく、来年度の受験を目指す3年生の姿も数多くあり、熱心に耳を傾けていました。



また試験直前の1月27日には毎年恒例の受験者壮行会が行われ、担当教員から受験者一人ひとりに直筆のメッセージカードを手渡し送り出しました。

授業紹介

総合福祉学部

磯部幸子准教授 「卒業研究(磯部ゼミ)」

卒業への最終関門、 卒業論文提出に向け最終チェック

磯部幸子准教授のゼミでは、提出期限を3週間後に控えた11月10日、卒業論文発表会を行いました。発表会には4年生のゼミ生のほか3年生も参加し、各自がテーマを決め1年間研究を進めてきた内容を発表しました。

総合福祉学部の卒業論文作成は、全学生必修で文字数規定は20,000字程度と卒業までの最後の関門になっています。これをクリアするために各自がテーマを決め、章立てなど構成を行い、文献調査や聞き取り調査、アンケートなどを行いデータを集めてきました。

今回の発表会では、論文提出前の最終チェックとして、研究の視点と構成の説明、抄録の発表などを行いました。磯部ゼミでは、論文テーマの設定は設けておらず、ゼミ生各自が自身の関心のある事柄をテーマに研究を進めてきましたが、この日発表された中には自分が住んでいる自治体の福祉サービスの変遷をテーマにしたものや、知的障がい者が自立していくための在宅支援サービスに視点を置いたテーマなど、磯部准教授の専門分野である地



域福祉論・コミュニティワークをテーマにした論文もありました。

発表後は、聴講者からの質問や磯部准教授から提出までに補完すべき点などについての指導がありました。また同席した3年生は、先輩の発表に耳を傾けながらこまめにメモをとる姿が見受けられ、翌年、自分が取り組むテーマを探している様子でした。

こども学部

初田真知子教授 「コンピュータリテラシ」

“わかりやすく伝えよう” PowerPointによる研究発表

初田真知子教授が担当するコンピュータリテラシの授業はコンピュータ操作を身につけるとともにホームページ制作や表計算、プレゼンテーション用ソフトの機能の理解を目標とした授業です。取材にうかがった1月18日の授



業は、これまでの授業の総括としてPowerPointを使いプレゼンテーションが行われていました。

今回の発表は、各自が保育に関するテーマを選び、“子どもにわかるように伝える”という目標で行われました。この日発表されたテーマは、「認定こども園」や「保育士」など子どもに関わる仕事の内容について取り上げたものから、「不登校」や「ひきこもり」といった社会的問題を取り上げたもの、「こどもとお絵かき」や「ゲーム脳」といった発達に関するものまで様々で、発表者各々が図や写真、表などを織り交ぜながら分かりやすく説明していました。司会進行も学生が務め、発表を終えたあと発表内容に関する内容だけでなく、ソフトウェアの機能についての質問などもあり、プレゼンテーションを通じて、自身の考えを相手に伝えることの難しさと、コンピュータを使って理解の促進を図るための工夫を学びました。



実習レポート

浦和大学
総合福祉
学部

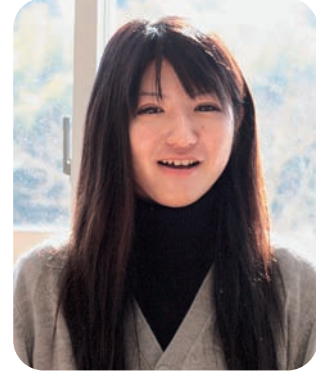
施設実習を通じて得た貴重な経験



私は社会福祉士国家試験受験資格取得のため3年次に行う現場実習で、身体障がい者の施設へ実習に行きました。

実習先の施設では、聴覚障がい、知的障がいの方が授産作業を行っていて、実際に私も利用者の方と一緒にクッキーを作ったり、マスコット作りなどの編み物の作業を行ったりしました。障がいをもつ利用者の方と直接関わった中で、コミュニケーションの難しさや見守る支援の大切さを身をもって学ぶことができました。

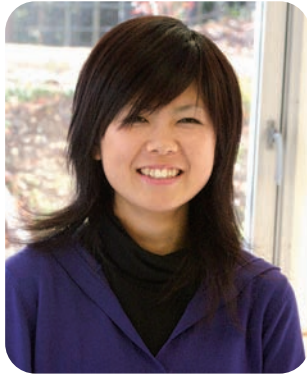
私は将来、障がい者施設の生活支援員として働きたいと考えています。今回、障がい者施設で実習できたことは自分にとって貴重な経験だったと思います。施設実習を通じて感じた気持ちや学んだことを忘れず、今後の大学生活に活かしていきたいと思っています。これからも更なる福祉の知識や技術を身につけるためにも勉学に励みたいと思います。



総合福祉学部3年
尾澤 美加さん

浦和大学
こども
学部

こどもの目線に立って築く信頼関係の大切さ



こども学部2年
吉野 麻衣子さん

保育士資格取得のため、2年次の6月22日から2週間、埼玉県上尾市立大石保育所で実習をさせていただきました。実習では2日間ずつ1歳から5歳までのクラスを担当しました。緊張と不安の中で実習が始まりましたが、実際に子ども達とふれ合う中で保育に対する考えや意識が変わりました。また援助の方法や接し方も授業で学んだことだけでなく、状況を見ながら自分自身で考えて行動することの大切さも分かりました。

何よりも実習をしていて一番良かったと思ったのは、こどもの意見をすぐ間近で聞けたということです。私が思っていることと、こどもが思っていることの違いがあることが良く分かり、より一層こどもの目線に立って関わらなければお互いの信頼関係を築くことができないのだと実感しました。

信頼される保育士になれるよう、今回の実習で得た経験を3年次で行う保育実習や幼稚園教育実習などに活かしていきたいと思っています。

浦和大学
短期大学部
介護
福祉科

コミュニケーションの大切さを学んだ実習



私は介護福祉士資格取得のための実習として、1年次の8月に特別養護老人ホームで13日間の実習を行いました。この実習は初めて学外で行う長期間の実習だったので、はじめは緊張と不安で、自分から利用者の方々に話しかけることが上手くできませんでした。けれど日が経つにつれ、だんだん利用者の方たちと打ち解け、自然と話をすることができるようになりました。初めて実際の介護現場を目の当たりにして、なかには驚くこともありました。学ぶべきことも沢山ありました。特にコミュニケーションのとり方は、実際に現場に出て経験を積まないと身につかないということを実感しました。実習で経験したことの一つひとつが自分自身の力となり、とても充実した実習を行うことができました。



介護福祉科1年
吉川 愛さん

就職内定者の声

大学で学んだのは “人と直接関わることの魅力” 一人でも多くの人に役立てる人間になりたい

東京地下鉄株式会社(東京メトロ)
総合福祉学部4年 浦野 彰彦 さん



自分の就職活動を振り返ってみると、特に特別なことをしたという印象はありませんでした。むしろ基本に忠実というか愚直に進めてきたと思います。3年生の10月頃から合同説明会に参加し、リクナビ、毎ナビ、日経、エンジャバンなど主要な就職サイトで情報を集め、1月末には50社以上にエントリーしていました。3月時点で個別面接までたどり着いたのは20社くらいで、4年生の6月までに内定をいただいた4社の中から決めました。

こう話すと全てが順調のように見えますが、企業エントリーや面接などに臨む際には、常に大学の学生・就職課に行き、職員の方からアドバイスをいただいていた。履歴書、志望動機、自己アピールなどは4度も5度も書き直しをする中で自分自身のことが見えるようになり、いつの間にか授業がない日や企業説明会の帰りにも大学の学

生・就職課に相談に行くようになりました。

私が就職活動で重視していたのは仕事内容でした。大学で福祉を学んだことで、人と直接関わることの魅力と、人に役立つ仕事がしたいという気持ちが高まり、この2つが満たされるのであれば、分野を特に定めずエントリーしました。内定をいただいた4社のうち3社は福祉系の会社で、就職を決めた東京メトロだけが福祉と関係が薄い会社でした。しかし駅での仕事は、自分が求めている2つの条件を満たしているうえ、様々な年齢の人に接することができるという点が魅力でした。

駅は様々な人が利用する場です。お年寄りから子ども、障がいのない方から障がいのある方まで、全ての人に駅を安全に、そして快適に利用していただけるよう努めていきたいと思っています。

利用者さんの近くで、 深く関われる介護がしたい

社会福祉法人潤青会 小江戸の庭
介護福祉科2年 湯澤 彩夏 さん



私が就職活動を進めるうえで大切にしたのは、利用者さんと近く、深く関わり合いながら介護をできるということでした。そのため就職するならユニットケアを行っている特別養護老人ホームと決めていました。ユニットケアの施設は利用者さんの居室が個室となっていて、1ユニット10人ほどの少人数なので家庭的な雰囲気のなかでケアできる点に惹かれました。

就職活動は実習が終わった10月ごろから本格的にはじめましたが、求人票がたくさんあり、勤務内容などの条件をじっくり見比べて、そのうちの1つの施設の面接試験を受けました。試験の結果、内定をいただくことができ就職先に決めました。他にも私が実習に行った施設からも就職のお声をかけていただいていたのですが、その施設はユニットケアではなかったこと、自宅からの通勤に時間がかかってしまうためお

断りました。けれどその実習先では、実習を指導してくださった介護長さんと介護について語り合う機会があり、その時に利用者さんの近くで深く関わることの大切さを学ぶことができました。そのことが就職活動を進めるうえで私の支えになっており、大変感謝しています。学外では高校生の時から始めた料亭でのアルバイトを短大時代もずっと続けてきました。料亭なので着物を着て接客するのですが、礼儀作法や気配り、一般教養など色々なことを学ぶことができました。こうした経験も介護の仕事に活かしていければ良いと思います。

振り返ると短大の2年間はあっという間でした。けれどその2年間は、介護の勉強にも実習にもクラブ活動にもアルバイトにも一所懸命に打ち込むことができた充実した時間でした。そして短大で出会えた仲の良い友達が大切な宝物になりました。

クラブ・サークル紹介

サッカー経験のない人でもやる気があれば大歓迎します!



フットサル部

部長 総合福祉学部2年 谷藤 優宅

フットサル部は男子20名(2年10名、1年10名)女子10名(2年3名、1年7名)の合計30名で、毎週火曜日と金曜日の4限終りからグラウンドと体育館で活動しています。練習は楽しく、そして時には激しく練習しています。男子はおもに埼玉県リーグの3部リーグ戦に参加しています。その他にもナイトリーグや他のチームと練習試合をしています。また女子は、レディース大会や男子と女子の混合ミックス大会に出場しています。

フットサル部には、フットサルやサッカー経験のない人も沢山入部しています。経験は関係ありません。先輩と後輩の仲もとても良いので、居心地の良いサークルだと思います。フットサルをやりたい人なら誰でも大歓迎します。もし火曜日か金曜日に学校見学などに来ることがあれば、是非フットサル部の活動を見に来てください。



撮影テーマは多彩
写真の好きな人集まれ!



写真部「CONNECT」

部長 こども学部3年 國分 雄貴

私達CONNECTは、毎週火曜と水曜に顧問の三谷先生の研究室で活動しています。

撮影場所は大学全体で、校舎や教室、校内の木々などの風景から、いつの間にか学校に住み着いている猫のマイちゃんなどの動物まで幅広く撮っています。また写真だけでなく映像も撮っており、これまでにダンス部の活動を撮影したショートムービーなど作成してきました。

この他にも学校内だけでなくメンバー個人が日々の私生活の中での様子を撮ったりしており、その写真をコンテストや学園祭などで展示しています。

このサークルの所属メンバーはみんな優しく、楽しいことが好きな人たちばかりなので、楽しいことが好きな人や何か作品を作りたいと思っているけど1人じゃできなくて諦めている人、写真を撮るのが純粋に好きな人など大歓迎です。是非CONNECTに一度見学に来てください。



▲國分さん撮影の作品



春のオープンキャンパス

新高校3年生向け



Q. 大学ってどんなところ?

授業は? 施設は? 先輩は?

A. そんなギモンも スッキリ解決!

春のオープンキャンパス

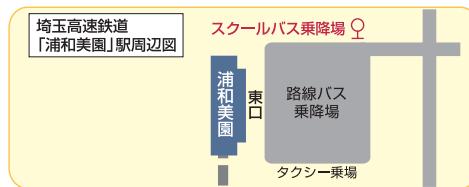
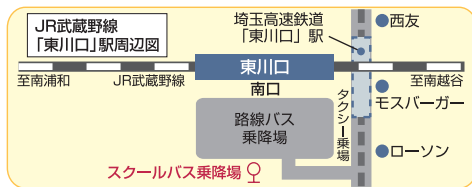
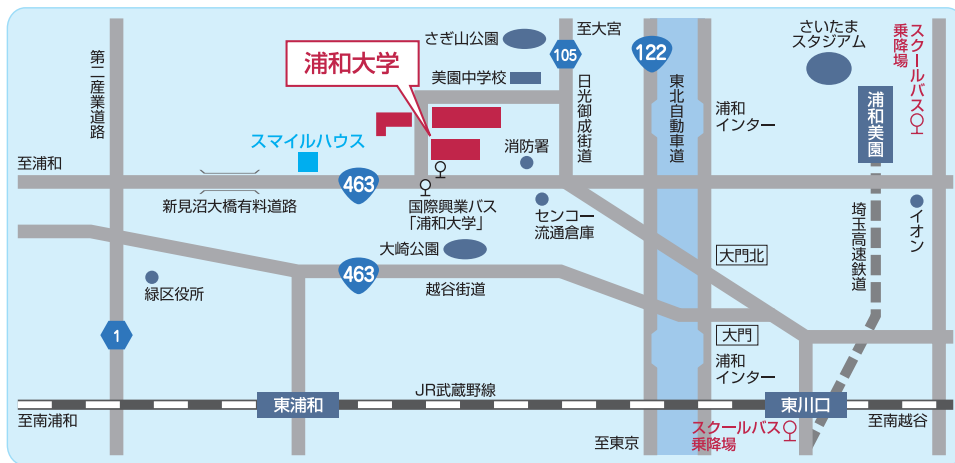
3月27日(土) 13:00開始

お友達や保護者の同伴もOK!

浦和大学・浦和大学短期大学部は、新高校3年生の方向けに春のオープンキャンパスを開催します。

各学部の紹介のほか、**模擬授業**や**学内施設見学**、**入試相談**なども行います。

学生スタッフが授業のことやクラブ・サークルなど大学生活について何でも相談にのります!



スクールバス(無料)運行時刻表

東川口駅発(浦和美園駅経由)→大学行

時	東川口駅発	浦和美園駅発
8	30 10	
9	30 00	
10	30 00	10
11	30 00	10
12	30 00	10
13	30 00	10
14	30 00	10
15	30 00	
16	30 00	
17		

大学発→東川口駅行

時	東川口駅行
8	40 10
9	40 10
10	40 10
11	40 10
12	40 10
13	40 10
14	40 10
15	40 10
16	40 10
17	40 10

赤色の出発時間は浦和美園駅経由です。

学校法人 九里学園 浦和大学 / 浦和大学短期大学部 入試広報課

〒336-0974 さいたま市緑区大崎3551 ☎0120-860-294 ☎048-878-5536(直通) FAX 048-878-5690(直通)
URL <http://www.urawa.ac.jp/> E-mail nyushi@urawa.ac.jp